



日本資本主義の成立は明治時代。欧米の制度を我がものとしたのだが、明治人がそれを抵抗なく受け入れたのは、一つに、精神的支えとして江戸中期の思想家、石田梅岩の石門心学があったからといわれている。第2次大戦後の経済成長を支えた企業や経営者もその理念を受け継ぐ。封建時代のまった中の梅岩がなぜ、時代を超えて思想的影響力を持つのか。

(田岡寛久)



石田梅岩の生誕地（京都府亀岡市で）

先“を見る 普遍の商人道

江戸時代の身分制度では、武士が上位に置かれ、米作り、もの作りの農・工がこれに次ぐ。儒教道徳に基づく考え方で、商人は何も生産せず、売り買だけで金を得る、とさげすまれていた。

これに対し梅岩は、身分は機能の違い、社会的分業と説明。商人が真つ当に利益を得るのは当然であり、「もうけには武士の俸禄と同じ正当性がある」と商人道を説いた。商人が学べる学問を日本で初めて作ったのだ。



梅岩は丹波国東懸村（現京都府亀岡市）の農家の次男に生まれ、京都の呉服屋に奉公。独学で本を読み、学者の話を聞いて回ったという。

その中で小栗了雲という師と出会い、道徳を商人としての長年の経験に融合させる。45歳で独立し、車屋町御池上の自宅で講義を始めた。

イラスト・森 豊

江戸開府から100年余り。経済は停滞期に入り、享保の改革の緊縮策がデフレを招いて商家の倒産が相次いだ。閉塞感漂う時代、梅岩の

ものかも分らないのに、分別なく捨ったのか」と叱られた。梅岩が説く道徳について話もある。

禁欲、清貧 遺品は本箱3つ



「心学明誠舎」（大阪市浪速区）所蔵の肖像画の石田梅岩は黒の紋付き姿。額にしわを寄せた厳しい表情だ。

生涯独身で、死後に残された遺品は本箱3つに手紙、身の回りの品若干のみ。

「心学明誠舎」（大阪市浪速区）所蔵の肖像画の石田梅岩は黒の紋付き姿。額にしわを寄せた厳しい表情だ。

10歳の頃、自家と他家の境を栗を拾い、父に「どちらの



答」にまとめられた。

「孟子 梁惠王上篇」から

「心学明誠舎」（大阪市浪速区）所蔵の肖像画の石田梅岩は黒の紋付き姿。額にしわを寄せた厳しい表情だ。

「孟子 梁惠王上篇」から引いた「先義後利」という言葉を、3代目当主が梅岩の孫弟子という魅屋の半兵衛麩や、大丸百貨店などの企業が今も家訓、社是にしている。

禁欲、清貧 遺品は本箱3つ



「心学明誠舎」（大阪市浪速区）所蔵の肖像画の石田梅岩は黒の紋付き姿。額にしわを寄せた厳しい表情だ。

生涯独身で、死後に残された遺品は本箱3つに手紙、身の回りの品若干のみ。

10歳の頃、自家と他家の境を栗を拾い、父に「どちらの

栗を拾い、父に「どちらの